

様式第1号

会議録

会議の名称	第1回 所沢市産業振興ビジョン策定委員会
開催日時	平成28年8月29日(月)10:00~12:15
開催場所	所沢市役所高層棟 8F 大会議室
出席者の氏名	荻野敏行 近藤かおる 政所利子 河藤佳彦 久野美和子 千年篤
欠席者の氏名	朝倉はるみ
説明者の職・氏名	
議題	(1) 策定委員会について (2) 所沢市の産業振興における現状と課題について (3) 意見交換等 (4) その他
会議資料	資料1-1: 所沢市産業振興ビジョン策定委員会条例 資料1-2: 所沢市産業振興ビジョン策定委員会 委員名簿 資料1-3: 産業振興ビジョン策定委員会の概要 資料1-4: 所沢市の産業動向について 資料1-5: 所沢市の工業について 資料1-6: 所沢市の商業について 資料1-7: 所沢市の農業について 参考資料1: 所沢市人口ビジョン 参考資料2: 所沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略 参考資料3: COOL JAPAN FOREST 構想 参考資料4: 所沢市街づくり基本方針(パンフレット) 参考資料5: 所沢都市計画図 参考資料6: 水とみどりがつくるネットワーク関連資料 参考資料7: 中小企業支援策パンフレット 参考資料8: 所沢駅周辺のまちづくりの将来像 参考資料9: 所沢観光ガイドブック 参考資料10: 第5次所沢市総合計画後期基本計画(概要版) 参考資料11: 財政状況資料 参考資料12: マチごとエコタウン所沢構想(概要版) 参考資料13: 所沢市地域産業実態調査 (製造業・商業・観光業・農業)調査票

担 当 部 課 名	産業経済部	部長	村松由朗		
	産業経済部	次長	増田謙二		
	産業経済部	産業振興課	課長	青木邦雄	
			主査	原田裕之	
			主査	村田貴紀	
			主査	板垣昭彦	
			主任	菅井悠登	
			主事	佐藤絢	
	産業経済部	商業観光課	課長	柳田晃芳	
			主査	川瀬孝子	
			主任	石山大	
			主事	田口孔一	
	産業経済部	農業振興課	課長	三枝恵一	
主任			須田芳人		
主任			橋本賢治		
産業経済部産業振興課	電話	04-2998-9157			

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
青木課長	開会
村松部長	委嘱状の交付
村松部長	あいさつ
各委員	自己紹介
	委員長・副委員長の選出
	・委員長：河藤佳彦
	・副委員長：千年篤
	委員長・副委員長あいさつ
村松部長	諮問の依頼
事務局	会議の運営について
	会議の公開・非公開
	会議録の記載方法と発言者の表記の方法
	会議録の確定方法
	以上の3点について事務局より説明。
委員長	特に意見・質問がないため、事務局の説明とおり会議運営を行う。
	【決定事項】
	会議については、原則公開とし、非公開情報について審議を行う場合は事務局より諮ることとする。
	会議録の作成は要約方式とし、発言者は個人名を出さず「委員」と記載することとする。
	会議録は、各委員が確認の上、委員長の承認をもって確定することとする。
事務局	議題（1）策定委員会について
	資料 1-3 に基づき説明。

	<p>[質疑応答]</p>
委員	<p>事業者へのアンケートは実施済か。</p>
事務局	<p>8月に配布済であり、現在回収中である。</p>
事務局	<p>議題(2) 所沢市の産業振興における現状と課題について 資料 1-4～1-7 及び参考資料等に基づき、所沢市の産業動向について国や県・他自治体と比較した統計データ分析の概要や、市内で進行している様々なプロジェクトの概要、各産業の現状と課題等について事務局より説明。</p>
委員長	<p>議題(3) 意見交換等 当委員会は、幅広い分野から知見を有する方々にお集まりいただいているため、できるだけ多くの発言機会を設けたい。そのため、この会議の場でそれぞれの課題に対して一つずつ結論を出すのではなく、各委員から自由に意見を出していただき、次回の委員会で事務局にそれらの意見を踏まえた資料をご用意いただき、議論を深めていきたいと考えている。 今日は初回であるため、まずはお一人ずつ、自由にご意見をいただきたい。</p>
委員	<p>中小企業が中心の所沢市において、産業振興ビジョンを作る上で最も重要なのは、歳入と歳出のバランスをどう図るかという点ではないか。今後、人口減少に伴い歳入も減収となることが見込まれる一方、歳出についても、伸びしろのある企業からの税収はあまり期待できない上、高齢化も進み、民生費も増大していくことが想定される。産業振興施策を検討する上では、特に歳入面について、どう確保していくかをしっかり考えていく必要がある。 その点と関連するが、COOL JAPAN FOREST 構想のように公有地を処分して民間活力を入れた開発を図る際、将来にわたって行政負担が増えるような計画となっていないか、しっかりチェックする必要がある。 また、参考資料1「所沢市人口ビジョン」のアンケート調査で、市内大学に通う学生の約7割が、所沢市に将来住みたくはないと回答している点に着目する必要がある。これからの市の産業を支えて</p>

	<p>いく若い世代に住みたくないと思われている要因・条件を把握するとともに、市に期待を持っている、市内で働きたいと考えている若者の声を深掘りするなどして、若者の定着を図ることが必要である。</p> <p>資料では様々な統計データの分析が示されているが、データ年次がやや古い印象を受ける。市の産業動向を的確に把握するためには、もう少し新しいデータがほしい。特に観光や農業などは近年新たな動きがみられるため、可能な限り最新のデータをもって市の現状を把握し、今後の方向性を検討できるとよい。</p> <p>市の人口は今後減少すると見込まれ、それに伴い税収も減ると考えられる。また工業・商業・農業・観光業いずれも弱いため、今後大きな税収拡大が期待できない中で、近年民生費が増大しているという実態があり、帳尻が合わなくなりつつある。市の経営を今後どうしていくのか、重要な局面にあると考えている。</p> <p>産業振興という点でいえば、製造業だけでなく、観光業・農業・商業それぞれに様々な課題がある。それらの課題に対して、個々の部署が対応しており、横の連携がないため、総合的に取り組み課題解決を図っていく体制やパワーがないように思われる。</p> <p>産業振興ビジョンは計画を作って終わりではない。作った計画がどう実行されているのか点検して、その評価も総合的に行い、最新動向を見据えて微調整を図りながら、生きたビジョンにしていくことが重要である。</p>
委員	<p>3点ほど指摘したい。</p> <p>再開発事業をはじめ、様々な大きなプロジェクトが動いていることが分かったが、そうなると各プロジェクトに伴い期待される流入人口の受け皿づくり、受入体制の整備が問題となる。具体的には住居の整備であったり、若い世代の転入が見込まれるのであれば保育所ニーズの増大に対する対応も必要となり、例えば空き店舗を活用した保育所施設の整備なども検討課題となるだろう。</p> <p>農業については、若い世代の担い手を確保するため、体験農業からスタートし、定着に導くといったストーリーも必要である。</p> <p>「所沢ブランド」の明確化が必要である。市内にたくさんの魅力ある資源があることは分かったが、それらを所沢ブランドとしてつなぐコンセプトが何か今一つ分からない。ブランド化について更</p>

	<p>に議論を深める必要がある。</p> <p>工業に関して、確かに物流などの利便性の高さを活かした企業誘致なども必要だが、それだけでなく、市内のGNT企業（グローバルニッチトップ企業：小さくても独自の技術力を持つなどキラリと光る優良企業）をいかに育成し伸ばしていくかという視点も必要である。</p> <p>我が国の産業構造は情報通信のグローバルな広がりを背景にこの1～3年くらいで大きく変化してきている。今まで日本の中小企業を中心としたものづくりは、大手企業のサプライチェーンに依存したヒエラルキーのもとで成り立っていたが、今や大手は海外で現地生産を行い、国内の中小企業への発注はどんどんカットされている。そういう中であって、技術力のあるGNT企業は、大手に頼らず直接海外の見本市などに売り込みに行けばよいが、そこまでの技術力のない一般的な中小企業は、ものづくりにサービスを付加して付加価値を高めるような商品開発の工夫が必要である。</p> <p>農業に関しては、この先担い手の減少は免れ得ない状況にあるため、いかに「儲かる農業」（手間が少なく、品質が良く、高く売れる農業）にシフトしていくかが重要である。ここでも市内の技術力をうまく活用し、都市近郊型の生活スタイルに密着した農業を展開していくことが必要である。</p> <p>商業に関しては、うまく所沢市のブランド化が図れるとよい。ブランド化に関しては、行政が「所沢ブランド」を作るだけでなく、それを実際に動かしていく民間企業とうまく手を組み、「新しい公共」としての実行部隊を構築することが重要であろう。</p>
委員	<p>人口減少は全国的な趨勢であり、その中であって首都圏 30 キロ圏内の所沢市の持つ優位性、メリットは大きい。大学生の7割が住みたくないというアンケート結果がある一方で、所沢市に住むことを考えている人もいるはずである。今後の人口減少を見据えれば、今いる市民の思いを汲みながらまちづくりを検討していてもよいのではないか。</p> <p>所沢市は 10 以上の鉄道駅周辺に商店街が発展するなど分散型のまちづくりがなされてきたが、これはある意味では高齢者にとって優しいまちである。そういう良さも認識して、良さは良さとして伸ばしていけばよいと思う。</p>

委員

税収面で考えれば集中型の大きな都市開発も必要だろうが、一方でキラリと光る小さな企業を支える分散型の政策もあり得るだろう。所沢市の将来のイメージとして分散型のまちづくりを目指すのか、集約的なまちづくりを目指すのか、検討が必要ではないか。

所沢市の大きな資源である「埼玉西武ライオンズ」をもっと活かしたらどうか。広島では小学校で「広島東洋カープ」の成り立ちなどを教えているそうである。所沢市でもそのような取組をしてもよいのではないか。

COOL JAPAN FOREST 構想についていえば、「FOREST」=森林、山林という用語がどういう意味を持って使われているのかがわからない。市の丘陵地帯との関係性をどう持たせるのか考えることも重要かもしれない。

現在実施されているアンケートでは、それぞれの産業についての質問が中心のようだが、他の産業分野についてそれぞれどう見ているのかを知ること重要である。業界団体との懇談会などを活用して、異業種に対する考えについても把握していくとよい。

全国的に人口減少が見込まれる中で、所沢市は交通利便性や首都近接性など大きな優位性を持っており、今後の産業振興においてもこれらを最大限に活かしていくべきである。

工業については、事業所数が縮小する中で、製品の質を高め、高付加価値化を図るような生産性の向上を図り、ソフト化、多角化に結びつけていけるような取組が重要になる。

農業も同様であり、市場型産業としての強み、優位性がある。それを活かしていくことが望まれる。

COOL JAPAN FOREST 構想は民間の主体性を活かしている点に期待が持てる。行政と民間が win-win の関係を築いて定着した取組に発展していけるとよい。

本委員会の委員に委嘱されている事項の一つとして、今後の産業振興を進めていくための組織体制の検討という点が盛り込まれている。各分野の課題を一体的に進めていく総合的な組織体制の在り方についても今後の委員会で議論を深めていくべきと考える。

アンケートについて、これは一つの意見であるが、単にそれぞれの実態や意見を聞くだけにとどまらず、ある程度アンケートの実施主体側がどのような考えをもっているのかを示し、それに対する意見を聞くというやり方もあり得るのではないか。この手法は今後予

事務局	<p>定されているヒアリングなどでも有効である。事務局がある程度志向性をもって投げかけをし、それに対する意見を吸い上げるのもひとつの手法である。</p> <p>議題（４）その他 次回は 11 月 22 日（火）午前中を予定している。</p> <p>閉会</p>
-----	---

なお、当日欠席の委員より、別途コメントが提出されたので、それを掲載する。内容については、各委員に周知済みである。

観光資源について

「COOL JAPAN FOREST 構想」が、所沢市に新しいイメージを植え付ける契機になるのは間違いない。狭山丘陵、航空記念公園、西武ドームに次ぐ 4 つ目の「核エリア」として、既存核エリアと観光客を奪い合わないようなコンテンツを創造していただきたい。また、「ところざわサクラタウン」は「お金を落としてもらえる施設」としての運営方法を十分ご検討いただきたい。

観光消費額について

資料 1-4「所沢市の産業動向について」P47 によると、観光客一人あたりの消費金額が川越市、入間市よりも低い。所沢市への観光客は、市内日帰り客が多い（特にイベント来場者）ためと想定されるが、飲食・物販で観光客の消費額を増加させる必要があり、商業との強い連携が必要である。観光客の落とすお金が増えれば、市民や市内企業が潤い、所沢市に住み続けたい、事業を続けたいという好循環が生まれる。

「観光客向け」ではなく、「市民が何度も食べたい、何度も買いたい」というモノを発掘・創造する必要がある。

以上